The 5th Annual Meeting of The Societyfor Nursing Science and Engineering

第5回看護理工学会学術集会

多分野融合型イノベーティブ看護学の躍進

第11回看護実践学会学術集会／国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 第7回学術集会

合同学術集会

ランチョンセミナー 2-1

スカルプケアの視点から

ー抗癌剤治療中のウェルビーイングー

日 時 10月15日(日)12:40～13:40

会 場 金沢大学宝町キャンパス 十全講堂

座 長

東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻
老年看護学／創傷看護学分野 教授
東京大学大学院 医学系研究科附属
グローバルナーシングリサーチセンター　センター長

真田 弘美先生

講 演 ①

乳癌患者の頭皮を科学する –医療用ウィッグの効果–

東京大学大学院 医学系研究科
社会連携講座スキンケアサイエンス 特任講師

玉井 奈緒先生

講 演 ②

抗癌剤脱毛予防剤の開発 –看護研究から産まれ産学連携で実を結ぶ–

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史先生

共 催 第5回看護理工学会学術集会／株式会社 アデランス

座　長

東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻
老年看護学／創傷看護学分野 教授、博士(医学)

東京大学大学院 医学系研究科附属
グローバルナーシングリサーチセンター　センター長

真田 弘美先生

略　歴

1979年	聖路加看護大学卒業
1987年	クリーブランドクリニック聖路加分校ETスクール修了
1989-90年	イリノイ大学大学院看護学部にて研修
1987-97年	金沢大学医学部研究生 博士（医学）
1998年	金沢大学医学部保健学科教授
2003年	東京大学大学院 医学系研究科健康科学・看護学専攻老年看護学分野教授、2006年より現職
2011-2012年	専攻長　　2015-2016年　学科長

2017年より東京大学大学院 医学系研究科附属グローバルナーシングリサーチセンター センター長兼任。1999年よりWOC看護認定看護師（現皮膚・排泄ケア認定看護師）。看護理工学会、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会の理事長、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本創傷治癒学会、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会などの理事、日本褥瘡学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の前理事長・現監事

MEMO

講　演 ①

東京大学大学院 医学系研究科
社会連携講座スキンケアサイエンス 特任講師

玉井 奈緒先生

乳癌患者の頭皮を科学する
–医療用ウィッグの効果–

玉井奈緒[1)3)]、峰松健夫[1)3)]、麦田裕子[2)3)]、真田 弘美[2)3)]
1) 東京大学大学院 医学系研究科 社会連携講座スキンケアサイエンス
2) 東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／創傷看護学分野
3) 東京大学大学院 医学系研究科附属グローバルナーシングリサーチセンター

我々の教室では、頭皮の異常のメカニズムを解明して治療することで、脱毛による患者の負担を軽減し、より健やかな日々を支えることを目標に、頭髪や毛髪の健康を考える「スカルプケアサイエンス」に取り組んでいる。その取り組みの1つに、乳癌患者の抗がん剤治療中の脱毛頭皮に関する研究がある。

早期乳癌の治療ではほとんど場合、補助療法として抗がん剤治療がおこなわれる。ご存知のとおり抗がん剤治療は脱毛をはじめとする副作用を生じるため、患者の苦痛は大きい。特に脱毛による外見変化は、患者の精神面や社会生活面へ多大な影響を及ぼす。この外見変化をサポートするものとして、ウィッグや毛付き帽子、バンダナなどが使用されており、中でもウィッグは外見変化を最小限に保つために、患者にとって必要不可欠な治療用具となっている。しかも脱毛中の患者は頭皮のピリピリとした痛みやかゆみを訴えるなど、頭皮が敏感になっているため、おしゃれ用から治療用といったウィッグ全般が適合するとはかぎらない。つまり抗がん剤治療中の敏感になった頭皮に直接触れるウィッグは、肌に優しいものである必要があり、治療中の患者の安心・快適な治療生活ための医療用ウィッグが重要といえる。

平成27年4月に医療用ウィッグに関するJISが制定され、直接頭皮に接触するネット部やスキンベース部、インナーキャップ部、毛剤等の適正な規格基準による品質検査が定められた。これは、治療中に変化した頭皮のために“安心・安全”なウィッグが提供できることを目的としたものである。今回、抗がん剤治療を開始する乳癌患者に対して、JIS規格を満たし、肌に優しいシルクプロティンをスキンベースに用いた新しい医療用ウィッグを使用した際の頭皮症状や頭皮生理機能への効果を検証したので報告する。

出典：第5回看護理工学会学術集会抄録

略　歴

2001年3月　金沢大学医学部保健学科卒業
2003年3月　金沢大学大学院医学系研究科
保健学専攻 修士課程修了（保健学修士）
2003年4月　（財）聖路加国際病院 外科病棟勤務
2009年4月　東京大学大学院 医学系研究科健康科学・
看護学専攻 博士課程入学
2012年3月　東京大学大学院 医学系研究科健康科学・
看護学専攻 博士課程修了（保健学博士）
2012年4月　東京大学大学院 医学系研究科
ライフサポート技術開発学（モルテン）寄付講座 特任助教
2012年12月　東京大学大学院 医学系研究科健康科学・
看護学専攻 老年看護学分野 助教
2017年2月　東京大学大学院 医学系研究科社会連携講座
スキンケアサイエンス 特任講師
現在に至る

【主な学会】
看護理工学会（評議員）、日本創傷・オストミー・失禁管理学会（評議員）、聖路加看護学会（学術交流委員）、日本褥瘡学会（会員）、日本創傷治癒学会（会員）、日本乳癌学会（会員）

講　演 ②

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史先生

抗癌剤脱毛予防剤の開発
–看護研究から産まれ産学連携で実を結ぶ–

猪股雅史[1)]、佐川倫子[1)]、河野洋平[1)]、平塚孝宏[1)]、麻生結子[1)]、後藤瑞生[2)]、波多野豊[2)]、濱中良治[3)]、北野正剛[4)]

1) 大分大学医学部消化器・小児外科学講座
2) 大分大学医学部皮膚科学講座　3) 大分県立看護科学大学　4) 大分大学

【はじめに】

がん患者の増加に伴い抗癌剤治療を受ける患者が増えている。脱毛は心的ダメージの大きな副作用があるにもかかわらずその有効な治療法は未だ存在しない。今回、看護研究→基礎研究→臨床研究→産学連携によって、抗癌剤治療後の脱毛に対する予防剤の開発が実現した。

【A. 看護研究：日常診療の問題点をとらえる】

看護研究によって、乳癌患者の抗癌剤治療時に生じる日常臨床の問題点として、脱毛や頭皮の痛み・かゆみの頻度と発生時期について明らかにする。

【B. 基礎研究：治療へつながるシーズをとらえる】

ラット抗癌剤誘発脱毛モデルを用い、ラットの背部皮膚にαリポ酸誘導体含有軟膏を塗布し、脱毛の程度、皮膚組織の病理解析を行った。1%塗布群で、著明な脱毛抑制効果を認め、病理組織像にて毛根・毛幹の破壊の軽減、炎症細胞浸潤所見の減少を認めた。アポトーシスの指標であるカスパーゼ活性は、対照群と比べ低値であった。

【C. 臨床研究：有効性を評価する探索的臨床研究】

乳癌患者を対象として、術後抗癌剤投与期間中にαリポ酸誘導体1%含有ローションの塗布を行った。その結果、脱毛随伴症状（痛み、掻痒）の発生頻度が減少し、脱毛が著明に抑制された症例も認めた。また3-4回/日塗布群は1回/日塗布群と比較しその効果が高かった。

【D. 産学連携研究：医学・看護学と理工薬学との連携】

2014年より乳癌患者の術後補助化学療法による脱毛への効果を評価する目的で、多施設共同臨床試験（αCIA trial）を行った。2015年5月に100例の目標登録数に到達した。化学療法終了後1年の追跡期間後に最終解析を行った。この結果に基づき、産学連携にて新規治療薬の開発が実現した。

出典：第5回看護理工学会学術集会抄録

略　歴

1988年3月　大分医科大学医学部卒業
1988年6月　大分医科大学医学部附属病院外科第一（研修医）
1990年4月　国立病院九州がんセンター 乳腺部
1994年5月　国立がんセンター研究所 病理部
（対がん10カ年総合戦略・リサーチレジデント）
1997年3月　大分医科大学 大学院 修了 博士（医学）取得
2003年4月　大分大学医学部総合外科学第一 講師
2010年4月　大分大学医学部総合外科学第一 准教授
（消化器外科副診療科長）
2011年9月　米国コーネル医科大学大腸外科(NY)
Visiting fellow（厚生労働科学研究海外派遣事業）
2014年10月　大分大学医学部消化器・小児外科学講座 教授

【主な学会・資格】
日本内視鏡外科学会：技術認定取得医・評議員・理事
日本外科学会：指導医・専門医・代議員
日本消化器外科学会：指導医・専門医・評議員・理事
日本臨床外科学会：評議員・大分県支部事務局
日本創傷治癒学会：評議員
ASCO（American Society of Clinical Oncology）：Activemember
ESMO（European Society of Medical Oncology）：Activemember

【特許取得】がん化学療法誘発脱毛に対する抗脱毛用組成物
（特許第5578997号 2010年9月16日）